

**第3回「(仮称)宇都宮市中小企業振興プラン」  
策定懇談会議事録**

<b>日時</b>	平成31年2月25日(月) 15:00~16:00
<b>場所</b>	宇都宮市役所 7A会議室
<b>出席者</b>	別紙参照 ----- (事務局) 経済部 商工振興課職員
<b>会議要旨</b>	「(仮称)宇都宮市中小企業振興プラン」策定について意見を聴くもの 【議事】 「(仮称)宇都宮市中小企業振興プラン」(素案)のパブリックコメントについて
<p><b>○ 主な意見・質疑応答</b></p> <p><b>【安西委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、(仮称)となっているプランの名称だが、正式には「宇都宮市中小企業振興プラン」となるのか。              例えば、第4章の基本理念で「がんばる中小企業応援都市うつのみや」とあるが、このような市民にわかりやすいフレーズを使った名称にすることは可能なのか。              ⇒ (事務局) 正式名称については、3月の庁内会議で決定するものだが、現在のところ「宇都宮市中小企業振興プラン」になる予定である。              ただし、副題として、愛称のような形でわかりやすい名称をつけることは可能である。</li> </ul> <p><b>【安西委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ では、ぜひこの後も、この名称の件についてご協議いただければありがたいと思う。</li> </ul> <p><b>【池田委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パブリックコメントの6番目の回答案について、「とちぎ企業応援ネットワークにおいて創業支援、事業承継支援のプロジェクトチームが連携し」というところまではわかる。しかしながら、その後の「空き店舗と出店希望者とのマッチング」については、創業支援の立場から不動産物件の紹介というイメージが強く、事業承継支援の色が出ていない気がする。              ⇒ (事務局) ご指摘のとおり、空き店舗のマッチングについては、創業の支援にはなっているが、事業承継の支援にはなっていない。              ⇒ (事務局) 事業承継の支援は、とちぎ企業応援ネットワークのところで連携して取り組んでおり、また、創業者の支援は、後継者人材バンクで取り組んでいるということであるが、そこは、検討して修正する。</li> </ul> <p><b>【鈴木委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 概要版の第3章「本市の中小企業の現状」「1 中小企業数、従業者数の状況」の1つ目の項であるが、本市の中小企業数について、新しく統計結果が出たので加えたということではどうか。              ⇒ (事務局) その通りである。本市の中小企業数の割合というのを新しく加えた。ただ、2つ目の項の「従業者数の状況」については、新たな統計結果が出ていないため、これまでと同じく従業員規模別の事業所から見た割合を記載している。</li> </ul>	

**【鈴木委員】**

- ・ 本編の70ページも同様に修正するのか。  
⇒ (事務局) 本編では、(1)の「国・県における中小・小規模企業数、従業者数」に加えて、新たに(2)として本市の状況を追加する。

**【阿久津委員】**

- ・ 第6章の施策展開において、基本施策ごとに5年後の目標値が設定してあると思うが、毎年、数値をチェックして、うまくいってればよいが、達成していなかった場合どうするのか。目標値は実態に応じて修正することがあるということ、どこかに補足しておいた方がわかりやすいのではないかと思う。  
⇒ (事務局) 目標の管理については、第7章のプランの推進体制の2つ目の項で、庁内関係課による全庁横断的な組織と、中小企業や支援団体、金融機関の方々で構成される庁外組織を設けることとしており、庁内組織にて年度ごとの報告をし、その後、庁外組織でプランの目標について検証をし、その結果を次の年に反映させていく。チェックを行う時期は未定であるが、年に一度、PDCAという形で検証しながら、施策の改善に取り組んでいきたいと考えている。

**【橋本委員】**

- ・ プランの内容は大変よく、素晴らしい。ただ、このプランをどのようにして、組合や市内事業者のところへ伝えてくか、PRが難しい。  
⇒ (事務局) プランの本編は資料も多く、118ページにも及ぶものであり、この概要版も読むところが大変多く、なかなか人に伝わらないと思う。今後は、一般の市民向けのリーフレットのような、厚紙でカラー刷りの比較的分かりやすいものも作成する予定であり、窓口や組合の会合などで配れるようにしたいと考えている。  
その際、多くの人に手にとってもらえるよう、副題として「中小企業元気プラン」や「がんばる中小企業応援プラン」のようなわかりやすいタイトルがあるとよいと考えている。

**【中荒井委員】**

- ・ このプランは、よくまとまっていると思う。  
また、このプランを浸透させていくのが私たちの役目ではないかと考えている。会長の言うとおりの、タイトルを決めた方が、印象がやわらかくなるし、浸透しやすいのではないかと思うので、検討の程、よろしく願いたい。

**【木本委員】**

- ・ 本文の110ページの「働きやすい労働環境づくりの推進」の「主な取組み」で「新規」として挙げられている「『えるぼし』・『くるみん』認定の取得促進」、「女性活躍推進法に基づく事業主行動計画策定の支援」について、具体的にどのようなことをするのか。
- ・ 労働局もそうなのだが、このようなプランを作成した時に、それをどのように市民に知ってもらおうか。裾野を広げ、周知をしていくことは難しい。周知については連携して進めていきたいし、効果的な手法があれば、ぜひ参考にしたい。  
⇒ (事務局) 現段階のイメージとなるが、「『えるぼし』・『くるみん』認定の取得促進」については、市内における認定取得事業者による取組の発表会や交流会を行うことで、市内の他の企業への周知やPRしてもらおうことを考えている。また、社会保険労務士に入ってもらい、取得に興味のある企業などをコンサルティングすることなどを考えている。  
「女性活躍推進法に基づく事業主行動計画策定支援」については、出前指導を考

えている。

**【木本委員】**

- ・ 出前にいく先はどのように決めるのか。  
⇒ （事務局）まだ、具体的なことは決まっていない。

**【池田委員】**

- ・ 第6章の戦略事業②「地域経済好循環につながる企業間・産業分野間の連携強化」で、活動指標の地域中核企業の認定件数が現在0件となっているが、地域中核企業の定義はこれからつくるのか。  
⇒ （事務局）この取組は、産業政策課が中心となり、平成31年度新規に取り組むものであり、いくつかの要件を決めて、その要件に合った企業を地域の中核的な企業として認定し、それらの企業が中核となって、地域内の取引を拡充し、地域の経済循環をよくしていこうというという取り組みである。まだ、取り組み自体が始まっていないので、認定件数は0件となっている。

**【池田委員】**

- ・ 例えば、業種ごとに売上高が最低いくらあるとか、域内間調達比率が何%である等、今後、条件を設定していくということか。  
⇒ （事務局）基準等はこれから整理するところであるが、そのような条件をつけて、募集をして認定するということになる。

**【池田委員】**

- ・ 最初の懇談会で「地域の中核企業」について、ハードルが高いということを申し上げたところである。地方創生が始まり、地域中核企業が…と言われているが、今までの経験則から言って、なかなか企業サイドから「我々は中核企業です」というのは難しい。

だが、中核企業は地域にとって重要な企業であるので、ぜひとも認定した暁には、それを大々的に発表して「地域の経済発展に貢献している企業です」ということをアピールしていただきたい。先程の新規事業と抱き合わせで、宇都宮市の中核企業としての位置づけや地域の貢献度などその存在価値が見えるようにしていくとよいと思う。

- ⇒ （事務局）意見を参考にしながら、ぜひその辺をアピールしていくように取り組んでいきたいと思う。

**【安西委員】**

- ・ 計画はほぼ、この形で問題ないと思う。  
また、他の委員からも意見があった通り、皆さんに知っていただくということで、サブタイトルやPRの方法について、事務局の方でよく検討していただきたいと思う。  
なお、計画が出来上がった後の管理体制について、これから計画をどのように管理していくのかというところは、今後、事務局の仕事になるかと思うので、よろしくお願ひしたい。